

サビエル生誕五百年



巡礼の道

166

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

バタンバン友の会

カンボジアの首都プノンペン、の北西約三百キロにあるバタンバンはプノンペンに次ぐカンボジアの第二の大きな町である。

イ、ラオス、ベトナムとの国境沿いには今も地雷がたくさん埋まっているという。

一九七五年四月から三年九カ月、ポル・ポト派がカンボジアの政権を握った。

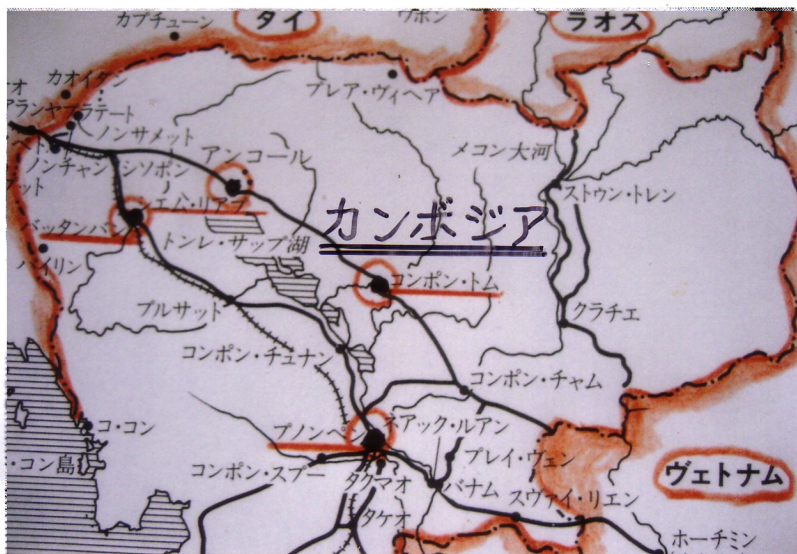
政権が崩壊する際、ポル・ポト派が最後まで抵抗を続けたのがバタンバン周辺で、そのためその後の発展、

開発も遅れ、カンボジアで最も貧しい地域と言われている。

日本でカンボジアの貧しい人々、弱い立場の人々を支援する組織が結成された時、貧しいバタンバンの名前を取って「バタンバン友の会」が発足したのは二〇〇一年九月のことである。

以来、今日までバタンバン地域だけでなく、カンボジア各地で支援活動を進め、学校

カンボジアではシエムリアップ、コンポントム、プノンペンを訪れた



も十三校を建設した。

友の会の会長は当時、広島祇園カトリック教会主任司祭だった

カンガス神父（現在は

山口教会、事務局は祇園教会にある。

今回の旅の話に入る前に、友の会が結成された経緯について触れ

ておきたい。

一九九八年、祇園教会の助任司祭としてベトナム人で日本に帰化した高山神父が赴任された。

彼は一九七五年、南北ベトナムが共産主義によって統一されたあとボートピープルとして脱出。難民として来日後、イエズス会に入会して司祭になった異色の神父である。

二〇〇〇年、高山神父は脱出後初めて日本人としてベトナムに里帰りした。そして日本に帰国する前にカンボジアを訪ねた。

なぜベトナム人の彼がカンボジアを訪問したのかは知らない。私は高山神父とは会ったことがなく、現在は大阪釜ヶ崎で路上生活者支援の仕事をしておられる。機会があれば

と考えている。

若者だけでなく、大人を含めてカンボジアを支援するため二カ月後の二〇〇一年九月に

発足したのが「バタンバン友の会」なのである。
(元山口放送取締役ラジオ局長)



貧しい農村地帯は電気も水道もない